

## 審査の結果の要旨

氏名 砂川 芽吹

自閉症スペクトラム障害(ASD)の臨床像は男性に偏ったものとなっており、女性の自閉症特性は見逃されやすい。ASD 女性は周囲に分かりにくく、有病率は低くなっている。そこで、本論文は、自閉症スペクトラム (AS) も含めて自閉症特性をもつ女性の特徴を明らかにし、理解と支援についての示唆を得ることを目的とした。論文は、研究の課題を明らかにする第1部、ASD 女性が経験する困難を明らかにする第2部、女性の AS 特性を測定する尺度を開発する第3部、結果を総合し、臨床的示唆を提示する第4部から構成される。

第1部1章では、先行研究や支援の知見が不足している現状を指摘し、2章では診断の有無に関わらず、AS をもつ女性の特徴を研究する意義と目的を示した。第2部3章では、予備研究から「ASD を見えにくくしている要因は何か」「診断までどのように適応してきたか」とのリサーチクエスチョンを設定した。4章では、成人期診断の ASD 女性 12 名の面接データを質的に分析し、周囲から ASD を見えにくくする「大人しさ」「就労状況」「家庭」「精神症状」に関する社会環境的な要因があることを示した。適応については、努力と失敗を繰り返して表面的な社会適応のスキルを学習しつつも、自尊心の低下があり、心理的健康が低いことを示した。そこで5章で ASD 女性の心理過程を分析した結果、自分は他者と違うとの違和感から「何者か分からない自分」という認識をもち、自己イメージの混乱が生じていることが明らかとなった。6章では成人期診断の ASD 男性 15 名の特徴を検討した上で、女性との比較より成人期の ASD の臨床像は男女で異なる可能性が高いことを示した。

第3部では、第2部の結果を受け、女性の AS 特性を測定する尺度 (FAQ) を開発し、自閉症特性をもつ女性の支援への臨床的示唆を得ることを目的とした。7章で尺度作成の予備調査の結果をまとめ、8章で ASD 群 82 名 (男性 36、女性 46) と一般群の大学生 1000 名に実施した本調査の概要を示した。9章でカットオフ値を比較する妥当性検討と、既存の ASD 評価尺度 (AQ と SRS) との併存的妥当性検討によって FAQ の妥当性を確認した。10章では、FAQ と自己肯定感尺度及び生活の質 (QOL) 尺度との相関分析の結果、ASD 女性では FAQ 得点が高いほど自己肯定感が低いことを示した。また、ASD 男性では ASD 特性と生活の質との相関がみられたのに対して ASD 女性ではみられなかった。この結果から ASD 女性では、男性とは異なる内面的支援の必要性が示唆された。11章では、一般群で FAQ (及び AQ) のカットオフ値を超える者をグレーゾーンとし、ASD、グレーゾーン、一般の群間比較を男女別に行った。グレーゾーン女性は、一般女性より精神健康度が低く、ASD 女性よりも得点が高い領域があることから支援の必要性が示された。また ASD の判別には注意・集中が男女共通で重要である反面、男女で異なる AS 特性が判別に影響していることも明らかとなった。

第4部12章で研究成果をまとめ、総合考察を行った。本論文は、適応的努力をしながらも自己イメージの混乱を抱える ASD 女性に特徴的な困難を明らかにし、違和感と孤独感に留意した理解と支援の重要性を示し、さらに AS の女性の特徴を反映した尺度である FAQ を開発し、問題が分かりにくいグレーゾーンの女性の支援の必要性を示した点で特に意義が認められる。よって、本論文は、博士 (教育学) の学位を授与するに相応しいものと判断された。